

2018 年度活動報告 CJP 授業：レギュラープレ1B

西村 由美（関西学院大学日本語教育センター）

1. クラス概要

本科目は、日本語学習経験の全くない現代日本専攻の履修者に対して選択科目として週 1 コマで開講される、ひらがなカタカナを学ぶためのクラスである。春学期は『KANJI CAN BE EASY』を主教材として使用したが、語彙・短文レベルでの読み書きにとどまり、習得の速い学生には物足りない一方で、語彙の読み書きで精いっぱいの子生もいた。そこで、秋学期は談話レベルで声に出して読めるようになることを第一の目標とし、書くことは丸暗記を必須とせず、50 音図を見ながらでも正確に書ければよいとした。主教材は、登場人物（大学の留学生・日本人学生・教員）が自分の日常生活について語るナラティブが学習の中心に据えられている『NEJ vol.1』を選んだ。登場人物のナラティブを聞き、読み、学生も自分の日常生活について、書き、話すことによって、談話レベルで語彙の意味と使い方を理解しながら、文字を習得することを目指した。

2. 授業内容

秋学期の授業は、初回に日本語の表記システムを説明した後、2 コマで1 ユニットのペースで進めた。文字は 50 音図順ではなく、登場人物のナラティブに出現する順で学んだ。ユニット 1、2 でひらがな、ユニット 3、4 でカタカナがほぼカバーされる。毎回の授業内容は、次のとおりである。①前回の授業の音読クイズ実施、②ローマ字で読み方が併記されたナラティブを見ながら聞き、意味を確認する、③数回音読する、④単文字で音・文字を確認し、各自文字カードを作成する、⑤文字カードを使って、覚えるための活動をする（語彙・文レベルで音を聞いて、カードを並べる等）、⑥再度ローマ字なしでナラティブの音読練習をする。また、ユニット毎に作文を宿題として課し、授業では学生同士で持参した作文の読み聞かせを行った。

3. 成果と今後の課題

秋学期は教科書・学習方法を変更したことによって、学習内容が充実したようで、多くを学んだという声が多数あがり、ほぼ全員が自分について書き、音読できるようになった。学生の授業中の様子からも、50 音図順に単語レベルで文字を学ぶより、談話の中から学ぶ方が、言語活動の幅を広げながら文字の習得も進むことがうかがえた。今後も、学生の学びの可能性が広がる授業を模索したい。